

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2420号 2018年08月13日(月曜日)

《 head towards new markets, new co-operation and new alliances 》

今週はお盆でお休みの方も多いと思うので手短に。最大の焦点は「相場変動は、グローバル資産市場の弱い部分から中核へと入り込んでいく」という日本経済新聞の記事に引用されていた米モルガン・スタンレーのストラテジスト、ハンス・レデカー氏の指摘が今回当てはまるのかどうかだ。

株価の反応を見る限り、先週後半のニューヨーク市場では弱い部分（トルコ→欧州）を経由して世界の資本市場の中核としてのニューヨーク市場に波及する兆しを見せた。私はまだニューヨーク市場が動揺を続ける可能性は少ないと思うが、それは油断かも知れない。

先週私が改めて考えていたのは、「(それが良いことかどうかは別にして) アメリカに睨まれた国の通貨や株式市場は下方に乱れる」というものだ。

イギリスでの禁止薬物使用の疑いで新たな制裁を受けたロシアもそうだし、アメリカ人牧師の拘束問題で先週制裁を受けたトルコもそう。中国はアメリカからの度重なる経済制裁を受けてやはり金融市場の動揺が見られる。中国は国自体が大きく、金融市場もコントロールする共産党一党独裁の国なので何とかその混乱ぶりを海外に晒さないで済んでいるが、動揺は隠せない。

そもそもアメリカの金利引き上げで資本が同国に戻る傾向を強める条件が整っているときに、世界最強国アメリカ（それがトランプ圧力だとしても）が制裁などの措置に出ると、当該国の先行きに懸念が強まり、その国から資本が逃げ出すという構図だ。トルコの場合はそもそも西側の同盟国であり NATO の一員という経緯から、時に欧州の金融機関に対トルコ融資を大規模に行っているところが多く、それが「トルコの混乱→欧州の波乱→中核たるアメリカ市場の動揺」となる気配が見える。

「国際決済銀行（BIS）によると、各国銀行のトルコ向け債権で最大なのはスペインで、今年3月末時点で809億ドル（9兆円弱）と全体の36%に及ぶ。フランスが351億ドル、イタリアが185億ドルと続く。米JPモルガンによると、トルコが海外から受け入れている直接投資の残高は今年5月末で1400億ドル。昨年末時点のデータでは、75%が欧州各国による投資で、オランダが最大の投資国だ」と日経は報じている。

よってやや商い希薄になると思われる日本のマーケットでもそうだが、今週の世界の関心事は、

1. トルコの金融市場の危機がどの程度進行するのか
2. その影響を欧州市場はどの程度受けるのか
3. 中核であるニューヨーク市場の動揺が今週は収まるのか

だと言える。トルコ・リラ急落の直接のきっかけは、米国人牧師の拘束問題に対するランプ政権の制裁発動。しかし今回の危機の底流には、エルドアン政権の政策運営が独善的、あるいは独裁的で、政策そのものがポピュリズム的志向を強めていることに市場が不信感を高めていたことにある。同政権は中銀の金融政策に公然と介入し、思い切った通貨防衛やインフレ沈静化策に中銀が動くのを止めている。「貧しきものを苦境に追い込む。利上げはしない」と公言。資本が同国にとどまる理由を消している。彼は強気だ。

「“this country is ours”」（トルコは我々のものだ）

「the nation would not “bow down” before any foreign adversary」（敵には屈しない）

「Our response to the person who wages a trade war against the whole world, including our country, is to head towards new markets, new co-operation and new alliances」（新しい市場、新しい協力、新しい同盟国を志向する）

と述べている。独裁については市場に端的に出る経済の苦境が体制を追い込むケースも多いが、今回はどうか。エルドアン政権とアメリカの態度変更も焦点だ。

今週の主な予定は以下の通り。

08月13日（月曜日）	インド7月消費者物価指
08月14日（火曜日）	中国7月鉱工業生産 中国7月小売売上高 中国7月都市部固定資産投資 独4~6月期GDP 独8月ZEW景況感指数 米7月輸出入物価
08月15日（水曜日）	7月訪日外客数 インドネシア中銀政策金利発表 米7月小売売上高 米8月NY連銀製造業景気指数 米7月鉱工業生産・設備稼働率 米6月企業在庫 米8月NAHB住宅市場指数 米6月対米証券投資

0 8月16日（木曜日）	7月貿易統計 5年国債入札 米7月住宅着工件数 米7月建設許可件数
0 8月17日（金曜日）	米7月CB景気先行総合指数 米8月ミシガン大学消費者マインド指数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。8月もう半ば。多分暑いけれども来週からは「秋の気配」が強まると思う。特に日本の北半分では。日中の暑さも徐々に最高温度が落ちて少しですが和らいできていると思う。このまま一直線ではないでしょうが、少し涼しくなってくれることを期待します。夏の高校野球も時間があると見ているのですが、給水しながら問題無く進行しているようで結構です。

この週末にとっても良い新しいレストランを発見しました。アメリカ大使館の直ぐ隣に出来た赤坂インターシティ AIR のアメリカ大使館サイド。ビルの一階、つまり地上階に DEAN & DELUCA がやっている THE ARTISAN TABLE というレストランがある。あることは知っていたが、今まで植栽豊富で外からはあまりよく見えなかったのが、いつも通る割には入ったことがなかった。

建設途上の時から思っていたのですが、このビルは植栽が凄い。それで一度何かに「このビルの植栽は凄い」と書いたのですが、この文章を書くに当たってビルのサイトを見たら「平成30年の都市景観大賞（優秀賞）」をとったとある。納得。

THE ARTISAN TABLE はその植栽に隠れるように、ある意味守られるように「森の中のレストラン」の雰囲気を持って存在している。その時はたまたま一階で食事をしたのですが（二階はコース料理と聞いた）、窓から見える景色のほとんどが「木立」で、「軽井沢か山梨で食事をしている感じ」と話していました。白樺に似た木も配されている。

DEAN & DELUCA がやっているのもニューヨークスタイルではあるが、味もしっかりしている。週末だったせいかメニューが少なめだったが、とっても美味しかった。もうちょっとサラダのメニューを増やすと良いと思う。あの周辺で働いている方も多いと思うので、機会があったら足を運んで下さい。

私たちが行ったときには、お客さんは女性が大部分だった。理解できる。都心にいながら「森の中での食事」が楽しめし、運営 DEAN & DELUCA ということもあるかもしれない。多分植栽や緑を楽しもうと思ったら一階が良いと思う。楽しんで下さい。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場

見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》